

# 巡検案内：富士山周辺の水環境

小寺浩二(法政大地理)

富士五湖や岳南地域の湧水など、豊かな水環境を誇る富士山周辺であるが、全般的に見る機会は少ないと思われる。そこで、陸水物理研究会の2011年度東京大会を実施するにあたり、会場校である法政大学の富士セミナーハウスを活用した「小巡検」を企画した。時間の制約から、総花的なものになってしまうが、主要な地点を訪問し、長年にわたる課題である「地下水塩水化問題」等に加え、2011年9月～10月に十数年ぶりに生じた富士宮の以上湧水の現状についても現地において視察する。

キーワード：富士山、富士五湖、岳南地域、地下水塩水化、長期モニタリング

## I はじめに

日程としては、3日夜、懇親会の後移動する宿舎である鳴沢にある法政大学セミナーハウスを早朝出発し、原則、反時計回りに富士山周辺を見学し、箱根を経て東京に戻るルートである。

夕方までを予定しているが、参加者の利用する交通機関の事情にあわせて個々に下車可能とする。

## II 富士山周辺の資料館

世界遺産登録を目指すには貧弱で、歴史・文化なども含めた小さな資料館はあるが、地球科学的な視点から訪問するに値するものは、鳴沢にある「富士山博物館」と河口湖IC近くの「富士山ビジターセンター」程度しかなく、さらなる充実が求められる。今回は、ルートの関係から立ち寄れないが、資料としては、ビジターセンターが最も充実している。

## III 溶岩樹型・氷穴・風穴

富士山の噴火に伴ってできた得意な地形がいくつかあり、その中でも、溶岩樹型の一つと・鳴沢氷穴を見学する予定である。

## IV 富士五湖と「割の海」、幻の第6湖「赤池」

古「割の海」に時々生じる「赤池」を観察する予定。今年秋に降水量が多かったことが原因。



図1 富士五湖の位置

## V 富士山周辺の名瀑と名水

忍野八海・富士宮浅間大社湧玉池湧水・柿田川湧水を始め、無数の湧水があるが、そのいくつかを訪問する予定。新富士火山噴出物末端を中心に数多くの滝もあるが白糸の滝が最も見応えがある。必ず調査するフィールドである。

## VI 富士山周辺の異常湧水・水位上昇

降水量・降雪量の変化によって、富士山周辺では、十年・十数年周期で、異常湧水・異常湧水が繰り返されている。地質・地形による流動速度の差などで、発生する時期や場所はまちまちだが、今年、9月～10月にかけて富士宮で発生した。

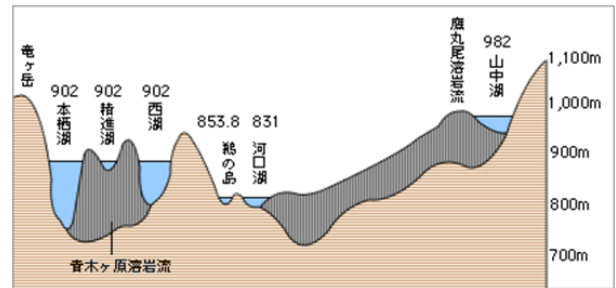


図2 富士五湖断面図

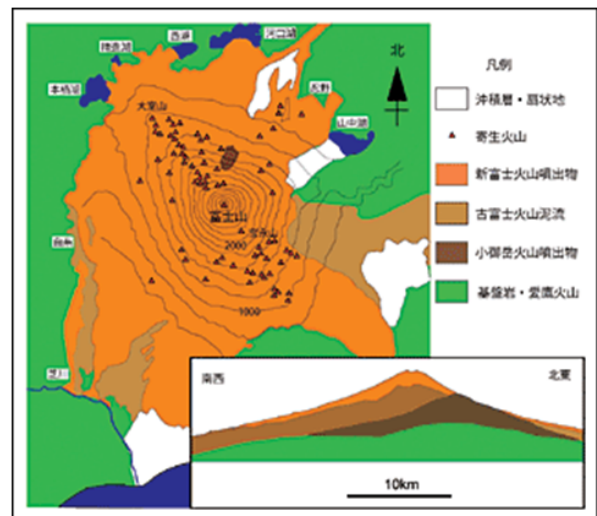


図3 富士山の地質・地質断面